

「救い主の誕生」マタイ1：18-25 堀田修一 20・12・20

I 聖霊なる神によるマリヤの奇蹟的な受胎。「イエス（名）・キリスト（職務：油注がれた者、メシヤ、救い主）の誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。彼がこのことを思い巡らしていた（神が支配されているこの出来事にはどんな意味があるのかと思い巡らす事は大切）とき、主の使いが夢に現れて言った。『ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです』：18-20。ここで一番、心に留めるべき事は、救い主イエス様は、ヨセフとマリヤが、まだいっしょにならないうちに、聖霊なる神のお働きでマリヤの胎に宿られたという奇蹟的な事実。これは人間の医学では、考えられない事。信仰深いマリヤでさえ「どうしてそのようなことが起こるのでしょう」（ルカ1：34）と言った。御使いは彼女に言った「神にとって不可能なことは何もありません」（1：37）。もともと父、子、聖霊なる神は、無から有を、天と地を造られた偉大な不可能なことの無いお方！人間や動物、植物すべてに命を与えておられるお方。聖霊なる神によるマリヤの受胎には、神の深いご計画、意味があった。ヨセフとマリヤの通常の夫婦の関係を通して生まれる子なら、アダムとエバからの罪を引き継いでしまい、人々を罪から救う聖い罪なき救い主になることはできなかった。しかし、イエス様は、聖霊によりマリヤの胎に宿られ、全人類の中でただ一人、罪の性質が全くない人としてお生まれになった（きよしこの夜）。それは、私たちの罪を背負い、私達を罪から救う資格のある救い主となる為だった。父と子と聖霊の分担＝父なる神（大切なひとり子キリストを救い主として世に遣わされた）と御子キリストなる神（クリスマスに、神であるのにへりくだり、神である全能の力を制限して人となられた）と聖霊なる神（マリヤの胎にイエス様を宿された）に心から感謝！私達への神の大きな愛：「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」（イザ43：4）。年を重ね、以前出来た事がだんだん少なくなっても、愛の神の目に、私達の存在価値は変わらない。

II イエスという名の意味。「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です」：21。「イエス」＝「主は救い」の意。旧約聖書に出て来る「主」は、父、子、聖霊なる三位一体の神。「名は、体を表す」と言われるが、正にイエス様は、完璧に、イエス（主は救い）という「名は体を表す」お方。「この方こそ、ご自分の民をその罪（原語：複数形。私達には、数えきれない罪がある。原語の意：「的外れ」＝真的である神から外れている）から救ってくださる方です」→イエス御自身こそ、神であり、御自身が造り、命を与えられたご自分の民をその罪から救って下さるお方！感謝します。私達を私達の罪から救って下さるお方→①私達の罪（神に頼らないで自分の力で出来るという高慢＝神が力を与えて下さっている事を感謝しない心、人の人格を支配する（正しいノーを言わせない縛り）高慢、神に生かされている恵みを認めない心、心の汚れ、不品行、憎しみ、恨み、ねたみ、陰口、悪口、不正、うそ他）の為に十字架で死なれ私達の罪を完全に償われた。それゆえに、私達が自分の罪を正直に神に告白、おわびするなら、私達の罪を赦して下さる。そして、新しい命、永遠の命、復活の命を与えて下さる！②罪の赦しだけでなく、私達の中にある罪の力、縛られた悪習慣、悪魔の誘惑から解放し続け、御聖霊により聖め続けて下さる。

Ⅲ「このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった」：22。救い主の誕生、クリスマスは、最初の人アダムが罪を犯して、神が慌てて用意された救いの出来事でも偶然の出来事でもなく、神の時が満ちて（ガラテヤ4：4）、神の約束、旧約聖書の預言が実現、成就した事実の出来事。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」（ヨハネ1：14）。貧しい家畜小屋に生まれ、貧しい人々の気持ちが分かる救い主。「救い主が生まれる」という旧約の預言のことばは、成就、実現し、神である主が人間となられ、クリスマスに生まれ、私達の罪の為に十字架で死なれるまでの33年間、この地上で生活され、貧しく、悲しみ、悪口を言われ、苦しみを経験されても、何一つ悪い事をされず、心にも何一つ悪い思いがなく、人々の間に大きな愛と聖さをもって生活された。

Ⅳ「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。）：23。偉大な神であるイエス様が、私達のもとに、下へ下へ降りて来られ、私達とともにおられる救い主となられた。私達なら降りて来るでしょうか？

苦しむ私達の所へ、心を込めて降りて来られるのは、大きな愛。何と、偉大な神である主が低く降りて来られ、主を信じる私達の心の中に住んで下さる。どんなにつらい時も、そばにおられ、心の中にもおられる！慰め励まして下さる。主は、私達が病気になった時、私達の気持ちを理解し、病床に共におられる。親しい人を失い悲しみの中にある時、主は私達の傷ついた心の隅々まで御存知であり、心の痛みを理解し、寄り添って下さる。今、悩んでいる私達の悩みを主は深く理解しておられる。私達の人生には、皆、試練がある。辛い試練の中で、聖書が語りかける。「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいませぬ。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます」Ⅰコリ10：13。耐えられるように、試練とともに備えられる「脱出の道」＝辛い事から逃げ出す道ではなく、インマヌエルの主が、試練の中でも私達と共におられ、試練に耐える為の力と愛と思慮分別を主が与えて下さる道。試練の中でしか学べない事を学ばせ、主に似た品性を心に与えて下さる道。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっている（低い私達の所に降りて来て共におられる）から、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます」マタイ11：28, 29。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない」ヘブ13：5。「見よ。わたしは世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます」マタイ28：20。マタイの福音書は、インマヌエルで始まり、インマヌエルで終わる。いつも共にいて下さる主を礼拝し、感謝し、拠り頼みたい。「クリスマス」という言葉の意味をご存知だろうか。クリスマス（Christ・mas）の前半の「クリス」は、Christ＝キリストであり、後半の「マス」は、mas＝ミサ、礼拝という意味です。つまり、本当のクリスマスを過ごす方法は、キリストを礼拝しつつ過ごす生き方なのです。この世では、クリスマスが、略されて、Xmasとされ、主人公のキリストがXとされ、追い出され、キリストなしのクリスマスが過ごされています。私も、キリストを信じる前のクリスマスは、キリスト抜きただケーキを食べる日でした。あなたは、キリストなしのクリスマスを過ごされますか？それとも、キリストを神とし、救い主として礼拝しつつ本物のクリスマスをお過ごしされますか！キリストと共におられる人生は、どんな苦しみ、試練があっても、キリストが、あなたを支えて下さる最高の人生です！いつも私とともにおられるキリスト様は素晴らしいお方です！人生の最後に死を迎えても、キリストが迎えて下さる天国に行く事が出来ます。キリストは永遠に、地上でも天国でもあなたを愛して下さいます。